

都議会第3回定例会 (9/3~9/18) 報告



日本共産党東京都議団ニュース
大山とも子 だより

一都民が主人公の東京へー

羽田新飛行ルートの白紙撤回を

知事は所信表明で、多くの都民が反対している都心上空を低空で飛行し、騒音や落下物等、さまざまな危険がある羽田空港の新ルートについて、実現に向け積極的に協力していくことを表明しました。

知事は、東京、日本の国際競争力向上やオリンピック・パラリンピック大会の円滑な運営に欠かせないので羽田新ルートは必要、との主旨の発言をしました。それが理由なら何でも許さないと考へているのかと知事に答弁を求めましたが知事は答弁に立たず、局長が「航空需要に的確に応えなければ、厳しい国際競争に取り残されてしまう」

などと開き直る答弁をしました。国は着陸するときの進入を急角度にすることで、騒音を減らすとしていますが、着陸のやり直しやしりもち事故などの危険性が格段に増えるとの指摘があります。騒音が睡眠障害を引き起こし、心筋梗塞や脳卒中の要因になることが明らかになっています。新ルートが都民の健康や生活に深刻で重大な影響を与えることは明らかであり、知事は国に対し白紙撤回を求めるべきです。



ました。

確にカジノ誘致をめぐる議論をしていましたが、実態は、明

まことかになっています。新ルートが都民の健康や生活に深刻で重大な影響を与えることは明らかであり、知事は国に対し白紙撤回を求めるべきです。



カジノ誘致はやめなさい

日本共産党都議団は情報開示によって都のIR・カジノに関する調査・検討の資料を入手し、その内容を分析し、9月6日公表しました。

小池百合子知事は就任当初、「IRというのはカジノだけではない」(2016年9月2日知事記者会見)と発言し、8月23日の記者会見ではカジノという言葉を使わず、IRというのは「メリットもありデメリットもあります」ということで検討していく」と話していますが、実態は、明確にカジノ誘致をめぐる議論をしていましたが、実態は、明

多く世論調査でもカジノ反対の声が多数となる中、都民に隠しカジノ誘致にむけた調査を行ってきたことは重大です。代表質問で「人のお金を巻き上げ、ギャンブル依存症を増やし、治安を悪くし、犯罪を増やし、貧困と格差を広げるカジノ誘致はすべきではありません」と知事に迫りました。知事は「都としては、IRについてはメリット、デメリットの両面があり総合的に検討していく」とごまかしました。

今回、公表したものは開示請求で出された文書の一部です。日本共産党都議団は引き続き調査を行い、都の姿勢を質し、カジノ誘致を断念するよう追及していきます。

日本共産党東京都議会議員団	発行
控室 電話 (5320) 7270	
FAX (5388) 1790	
新宿区住吉町十一二十五 電話 (3357) 3818	連絡先
FAX (3353) 4912	

◆都政に関するご意見・ご要望をお寄せください！

大山とも子事務所



都議会第3回定例会 (9/3~9/18) 報告



オリンピック・パラリンピック大会成功のために

深刻なのは酷暑対策です。選手や観客、ボランティアの命と安全を守るための最大限の努力が必要です。大山とも子都議は8月、大井ホッケー競技場の完成式典に出席しましたが、大変暑く、ミストが出るテントでも湿度が上がるだけという状況でした。観客席に屋根や送風機の設置、給水所をたくさん設けること、会場の多くが駅から遠いのでその対策も必要です。

オリンピック17日間

アスリートや競技団体の声を聴き、コースや時間の見直し、競技の中止、延期のガイドラインを作つておくことなども必要です。

の今年の気候は、35度以上の猛暑日が6日間、湿度は80%前後で推移、日本スポーツ協会が示す「スポーツ運動中の熱中症予防ガイドブック」で「運動は原則中止」に該当する日が14日間もありました。アスリート、観客やボランティアの命を守らなければなりません。実際に日陰のないコースを歩いた競歩の選手からコースを変えてほしいとの意見も出されるというのはよほどのことです。

ク」で「運動は原則中止」に該当する日が14日間もありました。アスリート、観客やボランティアの命を守らなければなりません。実際に日陰のないコースを歩いた競歩の選手からコースを変えてほしいとの意見も出されるのはよほどのことです。

ファシリティードッグ

アイビーの就任式に出席



8月25日、都立小児総合医療センター（府中市）に配属されるファシリティードッグ、アイビー（2歳のラブラドルトリバー）とハンドラー（訓練士）の就任式があり、大山都議も参加しました。

アイビーは患者に寄り添い、不安やストレスを和らげる、特別な訓練を受けた犬です。日本で4頭目、東京では初めての導入です。



写真はベイリー、手前左 大山都議

2013年、大山都議は都議団として、神奈川県立こども医療センターに小児がんや難病の子を支えていた

るファシリティードッグ、ベイリーの調査に行きました。そばに座つているだけで子どもは笑顔になります。つらい検査や治療にも「ベイリーがいるから」とがんばれます。

その後、共産党都議団は厚生委員会で何度も取り上げ、ようやくアイビーの就任となりました。すでに病棟で数か月訓練をしていたアイビーはすっかり人気者でした。

日本共産党都議団 申し込み活動

8月27日	同性パートナーがいる職員への福利厚生制度の適用、およびパートナーシップ制度を求める申し入れ
9月6日	東京都のIR・カジノ調査の実態について（情報開示請求で出された資料を分析し公表）
9月10日	台風15号による島しょ地域の被害への対策を求める申し入れ